

美術科学習指導案

海南省立東海南中学校

授業者 藤本喜久

日 時 平成31年2月5日(火) 第5限
場 所 美術室
学 年 第2学年A組(男子16名 女子19名、計35名)

1 題材名 粘土塑造

2 題材の目標

- ・身近な自然物から立体としてのよさや美しさを感じ取り、主体的に制作に取り組むことができる。
【美術への関心・意欲・態度】
- ・粘土の持つ特性に親しみながら発想し、工夫しながら構想を練ることができる。【発想や構想の能力】
- ・立体として表す技巧性を身につけ、創意工夫して表現することができる。【創造的な技能】
- ・自他の作品からよさや美しさを味わうことができる。【鑑賞の能力】

3 生徒観

このクラスの生徒は授業ははじめに受けなければならないという意識が強く、美術においても「正しい」答えを求める傾向があるように感じてきた。これまでの美術の授業では、「正しさ」を求めた課題制作をすることよりも、自分の感覚を素直に表現し、「主体的」に「楽しさ」を見出しながら課題制作することを生徒たちに求めてきた。すると最近では、徐々にではあるが課題に対して自分の感覚を基に、楽しみを見出しながら主体的に取り組むことができる生徒も多くなってきているように思う。しかし一方では、生徒個々の能力に個人差が大きくなりつつあり、制作進度が違ってくるなどの課題もみられる。

4 題材観

本題材は、学習指導要領の第2学年及び第3学年の目標(1)「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。」を受けて設定した。

前年度、粘土を使った課題制作を行った際には、形が取れずに苦勞する生徒が多数いた。また今回、事前に聞き取りをした結果、幼少時には粘土遊びを好んで行ってきた生徒は多いものの、小学校の図工で粘土作品を作った時には上手いかなかったという経験をもつ生徒が多いことが分かった。つまり粘土造形に苦手意識がある生徒が多いということである。彫刻の中でも「粘土塑造」は材料にじかに触れ、手の感覚である「触覚」を働かせて作品作りを行うものである。作り手は何を作るのか、明確に意思を持ち、触覚を働かせないと形は生まれない。この形の認識の仕方こそが、先述した「造形的な視点」の一つであり、この視点に絞った授業をすることで、生徒が楽しみを見出しながら制作をし、創造的な表現ができるようになっていくものと考えている。

5 指導観

本題材では、造形素材に触れる楽しさを体感しながら、そのよさや美しさ、形や量感について感覚的に理解させていきたい。中学生というこの時期は写真期とも呼ばれるように、対象を上手に、つまり実物そっくり再現することを好む傾向がある。そこで働かせる感覚としては一般的に「視覚」を最も優位としてしまい、対象を一方的な見た目からの思い込みで捉えてしまうことがよくある。これが視覚優位の対象の捉え方である。

今回は、その視覚優位の対象の捉え方ではなく、触覚を優位に働かせたものの捉え方を学ぶことで、新しい感覚、つまり新しい「造形的な視点」を発見し、楽しく、意欲的に自分の表現方法を追求し、作品のよさや美しさを表現できるようになっていくことを目指したい。

6 評価規準

		A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
①	関心 意欲 態度	感覚を十分に働かせ、立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。	立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。	机間指導をし、できている部分はほめ、悩んでいる部分には具体的な声かけをしていく。
②	発想や 構想の 能力	粘土の持つ特性を理解しながら制作し、形や量感、質感、配置等を的確に捉えながら発想し、構想している。	粘土の持つ特性に親しみながら制作し、形や量感、質感、配置等を発想し、構想している。	机間指導をし、できている部分はほめ、具体的な形や量を提示し、助言を行う。
③	創造的な 技能	粘土の持つ特性を理解しながら制作し、形や量感、質感、配置等のよさや美しさを的確に捉えて表現できる。	粘土の持つ特性に親しみながら制作し、形や量感、質感、配置等を表現できる。	机間指導をし、部分的に教師が手本を提示して支援する。
④	鑑賞の 能力	積極的に鑑賞し、自他の作品のよさや美しさを十分に味わうことができる。	自他の作品のよさや美しさを味わうことができる。	立体制作のおもしろさや表現の可能性を知り、自分の制作過程でよくできた所と反省点を教師と一緒に振り返れるように支援する。

7 指導と評価の計画（全6時間）

	時間	学習活動	観点	評価規準（主な評価方法）
導入	第1時	粘土でスケッチ ・身の回りのものを対象に粘土で立体スケッチをする。	① ②	立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。（観察） 粘土の持つ特性に親しみながら制作し、形や量感、質感、配置等を発想し、構想している。（スケッチ）
展開 1	第2時 本時	目隠しスカルプチャー ・触覚を働かせて対象を観察し、粘土で立体スケッチをする。	① ②	立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。（観察） 触覚を働かせながら、形や量感、質感、配置等を捉え、発想し、構想している。（スケッチ）
展開 2	第3時 ～ 第5時	塑像制作 ・粘土で自分の手を作る。	① ② ③	立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。（観察） 触覚を働かせながら、形や量感、質感、配置等を捉え、発想し、構想している。（スケッチ） 触覚を働かせながら、形や量感、質感、配置等を表現できる。（スケッチ）
展開 3	第6時	相互鑑賞 ・互いの作品を触覚を働かせて鑑賞し合う。	① ④	立体に表す楽しさを味わいながら制作しようとしている。（観察） 自他の作品のよさや美しさを味わうことができる。（観察・ワークシート）

8 本時の目標

触覚を働かせた形の捉え方に気付き、作品制作をすることができる。（造形的な見方や考え方）

9 準備物

アイマスク、粘土、粘土台、モチーフ（バナナ）

10 本時の展開

生徒の学習活動及び発問・予想される生徒の反応	・留意点 ○評価【観点】 ※手立て
前時に学習した粘土制作を思い出す。 「形を正確に捉えることができただろうか？」 「何が難しかったのだろうか？」 ・頭が大きくなってしまった。 ・手足のバランスが上手くいかなかった。 「形を正確に捉える」にはどうすればいいのだろうか？ ※感覚器官の分布を表すイメージ図を提示 2人班になり、ウォーミングアップをする。 「アイマスクをつけ、友だちの手を触覚を頼りに当てるゲームをしよう。」 ※触覚の敏感さに気付かせた上で、めあてを提示	・人体を粘土で作ったことを思い出させる。 ・本課題では視覚より触覚が優位に必要なことを理解させる。【焦点化】 ・リラックスした雰囲気を作る。
めあて：目かくしをして〇〇〇(バナナ)をつくろう！【視覚化】 アイマスクをつけ、モチーフを手にする。 予想される生徒の反応 ・指先で恐る恐るつまむ ・がっつりつかむ ・最初から細部を作ろうとする 山場：なるほど、手のひらで包むようにつかむことで、形を感じとることができるんだ。 なるほど、視覚ではなく、触覚を使って形を感じとることで、対象の形がよくわかるぞ。 よし、実物と比較しながら作ってみよう。	・触覚を働かせ、粘土と実物を手のひらでつかみ、比較しながら対象の形を感じとらせる。 ○触覚を通して形を捉えることの大切さに気付くことができる。 (造形的な見方や考え方)
大まかな形をつかんでから細部を作り込む。 アイマスクを外し、友だちの作品と自分の作品を比べ合い、感想を交換する。【共有化】 ではアイマスクを付けずに、再度バナナを作ってみよう。 先ほどの作品と比較し、感想を交換する。【共有化】 まとめ 片付け	※机間指導 ※形への具体的なアドバイス 「バナナって何角形だろう？」 ○互いの作品からよさや美しさを味わうことができる。

11 板書計画

